

2 主に大学進学を目指す学習をすること

目標に合わせて学習をしたい

【小学校・小学部】

- ・大学に進めるよう勉強が苦手な人もちゃんとついていける高校。
- ・大学に進学するために少しレベルUPした授業も取り入れてほしい。

【中学校・中学部】

- ・何かに特化した特徴的な学習よりかは、基礎的な学習で幅広く、将来を選ぶ指針にもつながるようなことを高校で学びたい。
- ・大学進学と言ったらやはり応用的な知識がほしいので応用問題を多く解ける学校が良い。
- ・将来の夢のため、大学へ進学しようと考えている自分とともに競い、そして高めあうことができる仲間に高校で出会いたい。そのため、自らの知識や、経験を蓄えることのできる環境が整っている高校で学びたい。
- ・最難関大学の受験を見据えた学習内容にしてほしい。

【高等学校・高等部】

- ・ちょうどいい偏差値のところがなくて学力がほどほどでいい感じの学校がいい。
- ・とにかく大学進学に特化した学びをたくさんしていきたい。そして、岩手県の高校生の学力をアップさせていきたい。

学習方法を工夫してほしい

【小学校・小学部】

- ・大学に合格できるような高校になるために、みんなが勉強できるようになにか勉強したくなるような授業などを作るのがいいと思います。
- ・人によって得意不得意があるけれど、得意を伸ばし、不得意を平均まで伸ばすような高校に通いたいです。

【中学校・中学部】

- ・しっかり2年までに高校範囲を終わらせ3年は演習などで入試対策をしっかりする、あらゆる教科選択に対応できる高校がよい。
- ・大学進学を考えているので、勉強がわからないときでも個人でじっくり教えてくれるような高校に通いたい。
- ・自分の行きたい大学に合わせてコースなどを決められたらいいなと思った。また、それぞれの大学の模試みたいなものをやってみたい。

【高等学校・高等部】

- ・課外や宿題の在り方を見直す必要がある。自主性をもっと尊重するべき。
- ・大学進学を目的とする学校なら、学年開始時につどつどどのような日程で学習を進めるのかを提示してほしい。
- ・東大プロジェクトみたいに、どこかの難関大に特化したコースが欲しいです。

2 主に大学進学を目指す学習をすること

進路指導・キャリア教育を充実させてほしい

【小学校・小学部】

- ・僕は、学校側が大学進学など未来について、全力でサポートしてくれる学校に通いたいです。自分の実力に見合うような学校を進めてくれる、生徒に寄り添ってくれる学校がいいと思いました。
- ・職業について学びたい、そのために大学に行きたいので高校では主に大学進学を目指す学習や地域のことを学び、将来に活かせることをしていきたいです。

【中学校・中学部】

- ・中には「○○大学に行かなきゃ」と悪いことではないが選択肢が縛られている子がいると思うので、そのような子の選択肢とか新たな進路を広げられるような高校で学びたい。
- ・大学進学の際に自分と真摯に向き合ってくれて、自分に合った大学と一緒に考えてくれるような高校に通いたいです。
- ・学校として大学の体験（オープンキャンパスなど）を選択して行ける高校。
- ・どんな事情があっても、学びたい気持ちが認めてもらえる学校になって欲しいです。進学を希望している学校は、学びたい気持ちを理解して貰えていないような気がしています。
- ・大学への進学をゴールとするものじゃなく、その先の大学で何を学べるかが分かり、さらに生涯に役立つような学習ができるような高校に通いたいと思う。
- ・普通科の学校でも自身のしたい職について学べる場や時間を設けることによって、将来について見通しを立てる事ができ、大学受験にも意欲的に取り組むことができるようになると思う。

【高等学校・高等部】

- ・進学に対して手厚いサポートをしてくれたり、奨学金や海外派遣など生徒の将来に役立つ制度があったりして、生徒が社会に出ても困らないくらい養育力を築きたいです。
- ・難関大講座について、どこの大学を具体的に想定しているか明記してほしい。(東北大などのような難関と国公立医学部のような難関ではベクトルが異なると考えているため。)
- ・次の将来に向けて人間性を育てるとともに大学進学を目的とした幅広い学習ができる学校にかよいたい。

2 主に大学進学を目指す学習をすること

このようなことを学びたい

- ・文学についてや国学について学べる高校で学びたい。
- ・世界史や地理、今の世界の情勢や今の世界がどうなっているかについて学びたいと思っています。
- ・ニュースなどの内容について解説してくれる授業があるといい。
- ・数学をたくさん勉強したい。
- ・理科の元素記号を学んだり、天候の変化と世界の変化など、理科についていろいろなことを学びたい。
- ・自然や地球の仕組み、何故宇宙は誕生したのか宇宙は何なのかを学びたい。
- ・スポーツや運動がたくさんできて将来スポーツにかかわりたい人が集まる高校がいいと思う。
- ・スポーツのトレーナーのようなことを教えてくれる高校に通いたい。
- ・美術大学や、絵の専門学校で学ぶような知識を詳しく勉強できるような学校に通いたい。
- ・音楽の授業でプロの方に教えてもらいたい。
- ・英語についてくわしく学べる高校に通いたい。
- ・多言語を学びたい。英語だけでなく隣の国の韓国語や中国語、フランス語なども学べるともっと世界が広がり、進学や就職するときにも大きな武器となると思う。
- ・理系が好きだが県内に理数科が少ないため増やして欲しい。

2 主に大学進学を目指す学習をすること

県教育委員会からのコメント

県立高校の現在の姿

- 高校は、学びの種類によっていくつかの「学科」に分けられます。
- 国語、数学、英語、理科、社会などを主に学ぶ学科を「普通科」と言います。
「普通科」では、学習を通して、幅広い知識と社会の一員として生きていくための力を育てています。
また、将来の目標をしっかりと定めて、そこに向かう準備のための学習をしています。
- いくつかの高校には、「普通科」の学習を基本としながら、理科や数学を重点的に学ぶ「理数科」や体育を重点的に学ぶ「体育科」があります。
- 岩手県の中学生のおよそ6割が「普通科」、「理数科」、「体育科」への進学を希望しています。
- 「普通科」の中で「芸術」、「外国語」、「体育」の学びを重点的に学習できる高校があります。
- 科学技術、工学、芸術、数学などの学習を社会問題の解決に生かしていくために、教科を越えた、つながりのある学習が必要とされています。
- 小さな高校（1学年あたり1～3クラス）の多くが「普通科」のある高校です。
そのような高校では、専門の先生が少なくなって、学習できる教科の種類を揃えるのが難しいという課題があります。
- 進学を希望する生徒が多い高校では、大学進学の希望を叶えるために、どのように学力を高めるかという課題があります。

県立高校の将来の姿

- 生徒の進路は、大学や専門学校への進学、就職など様々なので、生徒や保護者の希望や社会の変化に対応した学びをさらに進めます。
また、生徒の能力を高めるために、学習内容の見直し、学びを特色あるものにする取組をさらに進めます。
- 現代の課題に対応した能力を育てるため、実践的な学び、生徒が問題を発見・解決する学び、ICTを活用した学びなどを強化します。
また、そのような学びができる新しい学科やコースを考えていきます。
- 「理数科」や「体育科」などは、卒業後にどのような進路に進んでいるかなどをふまえ、学びの内容などについて考えていきます。
- 小さな高校（1学年あたり1～3クラス）で、より良い学習ができる方法を考えていきます。

2 主に大学進学を目指す学習をすること

中高一貫教育を取り入れてほしい

【高等学校・高等部】

・中高一貫校を増やすべきだと考える。理由は以下の通りです。

1 高校に入学し今までと異なった環境になってしまうと変化に適應できず不登校になってしまう可能性がある。大きな変化がなくゆとりある環境で6年間学べる点が魅力的である。

2 他校にくらべ授業の進度が早いため、レベルが高く大学受験に向けた対策が早めに行える。

3 高校生が近くにいるため将来を見送ることができる。

・専門的な知識を学ぶのに高校生活の三年間だけでは足りないと思う。中学三年間で基本的な知識を学び、高校三年間で応用的な知識を学び、職場体験などを通して学びを深めるやり方が将来に生きてくると思う。

県教育委員会からのコメント

県立高校の現在の姿

○県立高校の中高一貫教育には、「連携型中高一貫教育」と「併設型中高一貫教育」があります。

○「連携型中高一貫教育」は、授業交流などで地域の中学校と高校が交流して、連携高校への高校入試は基礎学力の確認などをします。
「連携型中高一貫教育」をしている地域の中学生が減っているという課題があります。

○「併設型中高一貫教育」は、中学校入試で入学した「附属中学校」の生徒は、高校入試をせずに併設高校に入学できます。その他に、他の中学校から高校入試をして入学する生徒がいます。

中学校から高校までの6年間で、生徒が問題を発見・解決する学びを充実させています。また、「附属中学校」出身の生徒と他の中学校出身の生徒が交流し合うことで、互いに刺激して高め合っています。

地域の中学生が減っていること、「附属中学校」のより良い学びの研究をこれからもしなければならないという課題があります。

県立高校の将来の姿

○「連携型中高一貫教育」は、地域の中学生の数や連携高校への入学者の数に注意して、今後について考えていきます。

○「併設型中高一貫教育」は、これまでの成果や地域の中学生の数に注意して、今後について考えていきます。